

Jさんの場合

放課後デイサービス職員

居住地：仙台市泉区

インタビュー日：2024年4月22日

お話：Jさん

聞き手：橋本武美

橋 私の息子のユウヤが当時10歳で、3.11当時、お世話になっていた放課後デイサービスの方にお話を伺います。震災時、どちらにいらっしゃいましたか？

J 私は送迎に出ていて、ちょうど事業所に戻る途中でした。車内には、私一人とお子さん一人で、ちょうど堤通、雨宮町のあの辺で地震が来て、車を停めてという感じでした。

橋 そのデイサービスはだいたい小学生が多かったから、そのお子さんも小学生ですか？

J そうですね。3年生だったと思います。

橋 そのお子さんの様子はどうでした？

J 特に取り乱す感じはなく、車も結構揺れて周りも揺れていて。歩いている人たちもしゃがみ込んだりとか、あとビルも何となく揺れているような感じだったので。

橋 ポンポンと、本当に今まで経験したことのないような、ちょっと恐怖を感じる揺れでしたよね。そのお子さんは何が起きたかわからなさそうだった気もするんですけど。その後、放課後デイサービスの施設に戻ったんですか？

J そうですね。事業所に5分もかからない所にいたので、その場で待機というよりは、事業所に戻ったほうが安心かなということで、戻りました。

橋 当時、すべての放課後デイサービスではないけれども、こちらの施設は避難訓練も定期的にやってくれていたし、非常時には必ず親が迎えに行くというルールもきちんと決まっていました。ルールが決まっていなければ、非常時はどうしようっていうことになりますよね。スタッフさんのなかでこういうふうにならうと、事前にルールなどはしっかり決めたり、話し合いとかがあったりしたんですか？

J いつか来るだろうと言われていた大地震だったので、地震が起こった時には「学校にいる場合」、「事業所にいる場合」、あと「利用してない場合」があると思うんですけど、「学校にいる場合」は、下校時間までは学校の管轄下にあるので、そこは学校にお任せする。それで、送迎中だったり「事業所にいる場合」は、やはり事業所の責任でということになるので。一緒にいる時はきちんと子どもたちの安全を確保することを、事業所間でも職員間でも共有しておりましたし、いろんな想定をして避難訓練をしていました。送迎中だったらどう対応するかとか。

橋 それもやっていたんですね。

J はい。たぶんやっていたと思う。3.11以前からやっていたのか、その後からだったのか、ちょっと記憶が定かではないのですが。

橋 でも、定期的に避難訓練はやってもらっていた記憶があります。それがあったから、施設のなかもお子さんがいたと思うんですけど、そんなに困らなかったんじゃないかなと想像するんですけど。Jさんが震災当時、施設に戻って、なかにいた方たちはどうだったんですか？

J 事業所に7名いました。ちょうど支援学校の卒業式で、在校生の方はお休みでした。

橋 そうそう。うちもそれで、卒業式に該当しない息子はお休みで、それで放課後デイサービスを使わせていただいていた。

J いつもだったら学校から帰ってくる時間だったけど、ちょうどお休みで、事業所にいる子がいました。

橋 午前中からでしたか？ うーん、ちょっと私も記憶が定かじゃない。お昼くらいからだったかな。だけど、学校

からではなくて、休みの日の早めの時間から行ったはずですよ。

Ｊ　そうですね。3校くらい学校がお休みで、支援学校のお子さんと、あとは近くの学校のお子さんがちょうど下校時間だったので、お迎えに行って、事業所に来ていました。

橋　小1から小6までのお子さんですよ。どうでしたか？　様子はどんなだったと聞いていましたか？

Ｊ　やっぱり揺れが長く続くので、怖さから「地震のバカ」って言っていたお子さんもいらっしゃったようですが（笑）、きちんと防災頭巾をかぶって職員の声掛けに応じて。顔面蒼白になるお子さんもいたんですけども、大丈夫だよって声掛けをしながら。

橋　そうか、防災頭巾も用意してくれていたんですね。

Ｊ　そうですね。人数分。

橋　揺れは長かったけれども、それでも一応ひどい揺れがおさまって、そのあとは？

Ｊ　幸いあまり物が落ちてこなくて、お子さんたちがいたところはあまり被害がなく。物が落ちてきてその音で怖いとか、そういうこともなかったようです。食器も落ちなかったです。揺れの向きだったのかな？　と思いますけど。

橋　あそこは2階建てでしたか？

Ｊ　いえ、平屋です。

橋　結構古い建物ですよ。当時でも古い。

Ｊ　ええ。古いんですが、耐震の工事をしていたので、そのおかげもあり建物自体に被害というのはなかったですね。

橋　食器も落ちないで。確かに子どもたちがいるようなスペースで、あんまり高いところに物は置いていなかったですよ。だから、物で怪我とかそういうことはなくて、みんな大丈夫だよって。それで、そのあとはどうなふうに？

Ｊ　そのあとは、停電になっていたのでストーブも使えませんし、寒いのでテーブルに毛布をかけて簡易的なこたつの用意をして、ペットボトルにお湯を入れて。そのこたつに入って暖をとるような感じでしたね。

橋　大きな大きな揺れがおさまったあと、お子さんたちはどうでしたか？

Ｊ　「地震のバカ」って言っていたお子さんは、ちょっとやっぱり不安な気持ちは出ていたんですけど、ほかのお子さんは好きな雑誌を見て落ち着いたりですか。表情が硬いままのお子さんもありましたが、職員が一緒にいるということで徐々に落ち着いていって、いつもの好きな絵本とかおもちゃで気持ちが安定していったような感じですかね。

橋　比較的、パニックで動きが激しくなるとかはなく、わりと日常の、いつもあそこで過ごしていたようなことで落ち着かせながら、親が来るのを待つという。うち、あのときお迎えに行くのにすごく時間がかかっちゃって、一番最後になって。着いたのは何時頃だったかな……真っ暗だったんです。

Ｊ　そうですね。20時40分でした。

橋　それまでのあいだに、みんなお迎えに来て、無事に安全に帰って。うちの息子の場合はすごく時間がかかってしまって、そのときのことは私の体験談のなかでも話しているんですけど、とにかく道路が動かなくて。大きい道路で行ったほうがいいだろうとそのまま行ったんですが、ずっと遅々として進まず、着いたときにはもう本当に遅い時間だったので。お庭にテントを張って、しかも夕飯でカレーを食べちゃってたんですよ（笑）。その、庭にテントを張るというのは、避難訓練とかでやっていたんですか？

Ｊ　そうですね。法人が3箇所あるんですけど、それぞれでテントを持っていて、建物がダメだった場合にテントを張って避難できるようにっていうので備えていました。

橋　うちみたいにお迎えが遅い子がいて、「テントを張ろうか」ということになったんですか？

Ｊ　だんだん暗くなってきて、建物は見た感じは大丈夫でしたが、そこで一晩過ごすよりはテントのほうが安心かなということで、「テントを張りましょう」と。

橋　親が何時に来るかわかんないから、「カレー食べよう」って？（笑）

Ｊ　そうですね（笑）。カレーは18時前くらいですかね、17時半くらいから準備を始めて。レトルトだったんですけども、ご飯とカレーを非常食で準備していたので、カセットコンロを使用して温めて、お子さんと、あと職員と。

橋　そのとき、私と息子だけでしたかね？

Ｊ　いえ、お子さん4名くらいと、職員と。

橋　どれも準備があって、カセットコンロもあった。カセットコンロもいろいろ想定して準備していたんですか？

J　そうですね。一応3日分の食事というか、水と食料は準備をしていたんですけど、外物置に入れていたものと、室内の物置に入れていたものがあるので、取り出すのにちょっと時間はかかりましたが。

橋　うちもカセットコンロは、地震が来る来るって言われていたから準備して、ガスも買い置きしていたんですけど、ちょっとなかなか大勢でカセットコンロというのは……今初めて聞きました。でもそのおかげで停電しているけど温かいものが食べられて、子どもたちも安心できたんじゃないかなと。楽しかったっていうか。テントであったかいカレー食べた。嫌な体験ではなかったんじゃないかなと思うんですね。

J　そうだといいなと思いますけどね。

橋　支援する側も必死ですよ。またいつ地震が来るかわかんないです。ちなみにその日、スタッフさんは何名くらいでしたか？

J　スタッフは柏木だけで7名。あとほかにボランティアさんが2名。

橋　ボランティアさんも最後までいらっしやった？

J　えっと、発災時には1名いらっしやって。あとは来る予定だった方が向かっている途中だったみたいで、そのまま電話も繋がらなくなってしまったので、来てくださったんだと思うんですけども。

橋　本当に最初だけちょっと電話とかメールで繋がって、すぐ繋がらなくなってしまいましたよね。なので事業所間の連絡も取れなくなりましたよね？

J　そうですね。メールも電話もなかなか繋がらないっていう状況なので。

橋　でも日頃やっぱり、結構離れた場所の3箇所だけれども、それぞれちゃんとテントがあったり、カセットコンロがあったり。そういうことが起きたときにはこういうふうにして話し合いをされていたんですね。

J　そうですね。

橋　最後にうちの息子を送り出して、その後、みなさんはどういうふうにされたんですか？

J　職員は帰宅になりました。

橋　その時って、Jさん、結構ご自宅まで遠かったような記憶があるんですけど、帰りの道はどうでした？

J　そうですね。停電だったので信号がついてなくて。事業所の近くが小学校なので、避難する人たちが結構歩いていたんです。けど、帰る頃には歩いている人も少なくなって、信号がないので怖いっていうのはありました。でも、なんとか帰ることができました。

橋　時間的にも、下り方面がすごく混んでいるとかではなく、それほど普段と変わりなく？

J　そうですね。21時くらいだったので、道路も空いています。

橋　ちょっと個人的な話にもなりますけど、ご自宅のほうの被害はどうでした？

J　一軒家なんですけど、あとから壁に亀裂が入っているとわかったんですけど、物が落ちるくらいで。幸い水道も止まらなくて。

橋　水道が止まらなかった地域があったんですね。

J　というか、水道は1、2日止まったんですけどすぐ出て、ガスもプロパンだったので。なので、ライフラインでは電気が止まったということくらいでした。

橋　停電は、何日かで解消しましたよね。

J　そうですね。あと地域的になのか、井戸を持っている方が何人かいらっしやって。そこで「水を提供します」って。

橋　それはだいぶ心強いですね。ご家族とかみなさん大丈夫？

J　はい、大丈夫でした。

橋　停電はしたけれども、ご家族は大丈夫で。それで次の日からの事業所運営はどうでしたか？　連絡がとれるまでは、

J　片付けと現状把握のために柏木の事業所に行って。連絡とれてからは、職員全員で一回集まりましょうということに。

橋　それは何日後くらいですか？

J　2、3日後くらいだったと思います。お子さんたちの安否確認がどうだったかを、共有したりですとか。

橋　再開をどうするかってことも大きいですね。それぞれの施設点検をした後、子どもたちを迎え入れられるかどうか。

J　そうですね。電気が復旧してから再開っていう話をしていました。

橋 そうですね。電気が戻ったら、開所するというのを連絡とかしなきゃならないですもんね。そのあたりどうでしたっけ？ あのと、私もぜんぜん覚えていないんです。

Ｊ たしかメールで、何日と何日、何時から何時まで開所しますっていうのお知らせして、希望の方を受け入れるっていうような。

橋 それはやっぱり、親が連れてこられるお子さん……。

Ｊ そうですね。送迎していただく。

橋 あとは、もちろん人がいないと迎え入れることができないから、じゃあこの日だったら何人以上それぞれいるとか、そういうことですね。

Ｊ そうですね。

橋 3.11のあとに、最初に開所したのっていつだか覚えていますか？ ざっくりとでも。

Ｊ うーん。いつだったかなあ……。1週間か、10日後くらいだったと思うんですけど……。もうちょっと早く開所できなかったかなって思いはありますけど。

橋 それは、あとから？

Ｊ はい。

橋 最低限、電気が戻っていることと、なかを点検して大丈夫っていうのと。あと、連絡がつく人だけじゃなくて、やっぱりみんなに連絡がとれるぐらいになってからってことですね。

Ｊ そうですね。

橋 みなさんにメールなどで連絡できるくらいになったところで、じゃあこの日とこの日に開所しようって。そのときって、午後の時間とかですかね、お昼とか挟まずに。どうだったんですか？

Ｊ たぶん、午前と午後でそれぞれの希望を募って受け入れをしましたね。

橋 ああ、なんとなく思い出してきた。そうだ。で、再開して子どもたちが集まってきたときとか、お子さんたちはどうでしたか？

Ｊ まだたくさんの方が利用していたわけではなかったもので、1人2人とかだったんですけども。「いつも来ている事業所」っていうふうには思っただけではないかなと。

橋 いつもの場所にやっと戻って来れたというか。その日以来、いつ学校が始まるかもわからないし、電気が戻ってテレビがついても普通の番組をやってないですし、土日なんかは特に。その頃、いまもそうなんだけど、息子は新聞のチラシが大好きで、でもチラシが来ないし、CMも大好きだけど普通のCMもやってくれない。ACばかりだし(註:震災後は通常の企業CMの放送が見送られ、その空白を埋めるために「公益社団法人ACジャパン」のCMが繰り返し放送された)。そういうなかでやっぱり、いつも行っていたデイサービスに行ければ、そこだけはいつもの場所。いつものみんなといつものスタッフさんが居る。それは、やっぱ大きかったなあと。

なにか地震のあとで、ちょっと気になる様子のお子さんとかっていませんか？ 大丈夫かしら？ みたいな、ショックを受けていないかとか……。

Ｊ ちょっとした揺れに敏感になるお子さんとかはいらっしゃいましたね。

橋 あの1か月後ぐらいにまた大きな地震があったんですね。

Ｊ ありましたね。

橋 あれは朝方だったか、夜中だったか……。昼間じゃなかったような。

Ｊ 昼ではなかったですね。私も家で、家族全員でいた時間だったので。

橋 でも2回目の地震のほうのがものすごく物が落ちて。2回目のほうが心が折れたという方が結構いるんです。1回目とはちょっと揺れが違ったんですかね。だから、すぐに手を付けられなくて。やっと片付けた頃にまた来た、みたいな。その2回目の4月の大きな揺れのときも、特に施設内の被害はなかったですか？

Ｊ そうですね。なかったと思います。

橋 じゃあ特に、3.11のときに困ったことってありましたか？ まず連絡？

Ｊ そうですね。一番は連絡。非常時に連絡を取れるシステムを導入していたんですけども、それは携帯ではなくパソコンだったので。パソコンがまず立ち上がらなくて。停電していたのでそれは使えず。安否確認をするのに導入していたんですけども、それは使えず……(苦笑)。自動受信が出来ないので、手動で……。

橋 どのくらいかな。たぶん、それぞれと連絡がつくようになった時期はバラバラですよ。最終的にはメールだったんですか？ ご家庭の方と連絡を取り合うときは。

J そうですね、メール。電話もなかなか繋がらなかったの。

橋 スタッフさん同士の連絡も同じことですよ？

J そうですね。パソコンのそのシステムが使えなかったの、メールでやりとりです。

橋 みんなが想定外だったけれども、やっぱり連絡手段というのは、いくら備えていても、次の地震が来たらやっぱりそうなると思うんです。結局、基地局が混み合うからパンクして繋がらなくなるだろうし。SNS は一番繋がりがやすいだろうけど、それでもすぐには繋がらないんじゃないかなと思ってるんです。そのあと、連絡手段については改善っていうか、話し合いになったんですかね？

J そうですね。利用者さんとのやりとりはメールが主ですね。どうしてもって言う方はLINEでということも。メールが難しい方は、ショートメール。

橋 それ以外に、あのとき困ったことって？

J ガソリンがないことですね。送迎車が使えない。安否確認をするにも、やはり遠いとなかなかおうちまで行ってというのでもできなくて、いざ再開するってなってもガソリンがないので、送迎が難しい。ご家族のご協力を得ながら再開という形だったので。

橋 あれだけガソリンが手に入らなくなることはもちろん考えてないですしね。ガソリンスタンドの人も必死だった。スタンドにずらーっと並んでいて、「今日はここまで」っていうことで、車そのまま置き去りにされて並んでいたりと。うちはガソリンスタンドは並べなかった。本当に困ったときは、息子の障害を知っている夫の知り合いとか、携行缶で持ってきてくれたんですよ、困っているだろうって。あのとき、携行缶もすぐに売り切れだったし。送迎車のこと考えたら、本当に大変でしたね。最初のほうはやはり、どなたかがスタンドに並ぶしかないですよ。

J そうですね。

橋 あと事業所に行くまでの自家用車。たぶん、ほとんどのの方が車移動ですよ？ だから、自分の車にガソリンがなければ事業所に行けないわけですよ。

J そうです。

橋 どの事業所もたぶん、ガソリンがないことの影響がすごく大きかったですよね。ああいうときって、医療関係から優先にあってあるけど、たとえば福祉関係とかにもそういうのはあったんですかね。ちょっと聞かないけど。医療関係だけですよ。

J そうです。

橋 それ以来うちはもう、ガソリンが半分きいたら入れるようにしています。そういうのはありますか？

J そうですね。半分きいたら事業所の車も入れるようにしています。

橋 では、その2点が困ったことですかね。連絡手段とガソリン。逆に良かったこととか、ありがたかったことって、なにかありますか？

J そうですね。近隣の方が、大丈夫？って声をかけてくれて。

橋 特にうちがお世話になっていた事業所は、周りに保育園があったりだとか、目の前がスーパーだったりもしたけれど、その恩恵は別になかった（笑）？ お水くれたりとか？

J そうなのはなかったですね（笑）。

橋 でも、近隣の方が気遣ってくれたり。それもすごく、気持ちとして、なんかジーンとしますね。住民の方ですかね？

J そうですね。住民の方。

橋 でも、実際に「ちょっとヒビが入っちゃったんで困ってます」って言ってトンカンやってもらうとか、そういうことではないですよ。実際になにかをしてもらうとかではないかもしれないけど、そういう施設だっていうことを理解した上で、心配して声をかけてくれて。ほかに良かったこととかありがたかったことって、なにかありますか？ 事業所の備えがしっかりしてたんで、それはすごく良かったんじゃないかなと思うんですけど。それこそ、カレーを食べさせてくれるなんてとても考えていなかったの、「ああ、なんてありがたい」と思いました。

J カレーの前に、実はサンドウィッチも食べていて（笑）。

橋 ああ、そうなんですよ（笑）。

J ちょうどその日のおやつがサンドウィッチだったので。

橋 そういうときでも、子どもたちは大丈夫？

J 食べない子は食べないけど、好きなお子さんはおかわりして食べたり。

橋 ショックを受けて食べられなくなるとかそんなことではなく。逆に、彼らは何が起きたか、たぶんそこまでわかってないんです。

J そうですね。だからいつも通りの生活をする。いつも通りおやつが出てきて。

橋 避難訓練もいつもやっているしね。

J そうですね。だから、いつも帰る時間なのになんで帰らないんだって思ったお子さんはいたんですけども。

橋 そうですよ。うちもいつ迎えにくるだろうと思っていただろうけど（笑）。

J（笑）。お迎えのときに、お父さんがいらっしゃった方がいて。そのお父さんとは誰も面識がなくて。

橋 そのときたまたま初めて来た人。

J そうなんです。誰のお父さんなんだろうって。

橋 じゃあ、俺が行くっていうことになったんだろうし。

J そうですね。お父さんがちょうど帰り道だったからというので、お父さんが迎えにいらっしゃる方もありました。でも、「誰？」っていうのが最初の言葉で。

橋 でも、お子さんは嬉しかったかもしれない。

J そうですね。

橋 ああ、あのあと、学校とかで誰が迎えに来るかを何人まで登録して、必ずその3人までの誰かだと確認できないと引き渡ししませんとか、たしか、そんな登録がありました。沿岸部のほうでは、「じゃあ、私が守るから」って（近所の方に引き渡して）、近所の子とかがそのまま一緒に被害に遭ったということもあったから。だからやっぱり家族じゃないと引き渡さないとかね、いろいろ。大きな地震があったから、そのあとどういうふうにするかをきっちりきっちり決めていくことに繋がりましたね。

食べ物も備蓄があって、その子たちが食べられるものももちろん把握されていたから、特に食べ物で困るっていうことは、その日はなかったんですね。

J そうですね。

橋 再開されたときって、おやつとかはどうだったんですか？

J 最初はなしで。

橋 買い物もままならなかったですしね。服薬があった方には「困りませんでしたか？」って聞いているんですけど、そのとき服薬があった方とかいましたか？

J あんまりなかったですね。朝と夜の服薬だけで。

橋 うちもお昼の服薬はなくて、朝と夜だけなので。じゃあ、お薬の面で困ったことは？

J 特にはなかったですね。

橋 あとは避難所。当時やっぱり、避難所には行けなかったとか、行ったけど戻ってきたとか、もう最初から絶対に行かないって決めていたという親が多いんです。たぶん近くの小学校にも避難されていた方がいたと思うんです。でも、もちろん障害の程度もバラバラで、いろんな障害のお子さんがあるはずなんだけれども、知的障害の方の避難所っていまでもぜんぜん変わってない。いまでも絶対行かないよっていう方がほとんどなんです。知的障害の方の場合、どういう避難所だったら行けると思います？

J 個室ではないですけども、他の方の刺激を受けないような部屋があるといいのかなと思います。いろんな人がいるとそれが刺激になる方もいらっしゃるので。

橋 いま、日本で避難所という小学校の体育館とかじゃないですか。それで、体育館とかでも、事が起きたらほとんどみんな雑魚寝ですよ。そのワヤワヤの中にいられないんですよ。だから、教室とかそのほかのスペースで……。

J 教室を借りられるか、もしくは校庭にテントを張っていいとか、安心して過ごせる空間。

橋 家族単位とか、テントも仕切られているとかね。もし教室が使えるとしても、できることなら2家族とか。教室のなかに5家族くらいドーンと詰め込まれるんじゃないかと、せめて4家族。そして、あいだにちょっと段ボールで仕切りとかできたりしたらいい。なんだろう、スペースとか、やっぱり段ボール1枚でも違いますよね、仕切ら

れている感じ。

J そうですね。ここが自分の場所っていうのがわかると。

橋 段ボールハウスとか最高ですよ。小さくてもしっかりした段ボールだと、ちょっと遮音とかも守られたり、自分だけのスペース感があって。パパパって組み立てられるような。段ボールベッドがあるんだから、段ボールハウスもそれぞれの避難所に、たとえば1個だけでもあってくれるといいなと、私なんか思っちゃう。

J そうですね。

橋 トイレもね、いまのような工事現場の人たちが使うような簡易トイレがドンドンと置かれても、普通の人でも嫌なんだから、彼らが使えなかったら、重い自閉症とかの人になると難しいだろうなって思うんですよ。非常時であれば、それぞれの家庭で備えているものを防災リュックに必ず入れて用意していて、それを持って避難所に行く。そういうふうにするのがいいのかな。なかなかトイレまではね……。サンドウィッチマンみたいな人たちが世の中にいっぱいいてくれたら。あんな良いものが、いっぱいになるんだろうけど（註:お笑いコンビ「サンドウィッチマン」の2人が、災害時に活用してもらおうと宮城県気仙沼市にトイレトレーラーを寄贈した）。

震災のあと、福祉避難所を作ろうという声もあったじゃないですか。それはどう思います？

J そうですね……運営する人がきちんと障害特性とかを理解してくださってないと、ただ作りましたになってしまおうと思うので。場所の提供だけではなくて、どういうふうにそこで過ごせるのかもちゃんと考えた上で、福祉避難所があるといいかなと思います。

橋 運営側のこともですよ。もし想定するのであれば、運営する人たちも想定して研修なり、知識を入れておいてもらう。それこそ避難訓練もちゃんとしておいてもらわないと、事が起こったときに行ったら、逆に……「福祉避難所なのに！」という思いをすることになりそうですよね。

J よく、避難所の運営って男性の方が多くて、女性の視点での避難所っていうのがなかなか難しいという話も聞いたことがあるので。

橋 本当ですよ。仙台市だと「女性防災リーダー」みたいな養成講座とかもやって、認定書求めたりとかもあるから、男性が仕切ろうとしたとしても、女性の方たちが「私たち研修受けてます、認定書持ってますんで」って活躍してくれればいいな。震災後すこし経ってからはそういう取り組みは、されているのかなと思いますね。ただ福祉的な、障害者の人たちとそのときどうするかについては、知識の部分から……そこはやっぱりないなあって思うんです。だって、「誰もが置いていかれないように、誰もが暮らしやすく」と謳うのであれば、行政からそういうことをやってもらわないとですよ。それぞれいろんなところに声がかかって意見を、となっていくんだろうけど、それでもやってもらわないことには、また同じことで……。能登のほうとかもたぶんいましてごく大変だろうと思うし。このあいだもNHKのテレビで、障害者の通所施設の方だったかな、やっぱりとても運営が大変になってしまっているって。当然デイサービスみたいなのところもそうだし、グループホームだったり、入所みたいなのところはもっと大変なことになってるはずだけれども、13年前にドカンとすごい体験をさせられた仙台の人たちですらそんなに変わってなくて、このまままた地震が起きたら、また同じことで同じように困るんだっていうことが、なにか沸々として……それで、私は去年の5月からこの聞き取りをさせていただいているんですけど。本当に草の根的なことだけど、「絶対に避難所には行かない、行けない」という話とかもメディアテークで展示して知ってもらって。新聞とかにも取材してもらって、福井のほうとか、神戸のほうとかの新聞にも載せてもらいました。やっぱりいろんなところで、いつなが起きるかわからない、想定できない。だから、やっぱり考えていかなきゃいけないんじゃないかと。それで、通所の施設の人たちが困ったり、これが必要だと思っても、いっぱいいっぱいそんな発信はできないだろう、と思うと、やっぱり備えておけることは考えて、備えられたらいいなって。もちろん知識がある方からだけけど、話しただけでも段ボールハウスだったり、仕切りがあるだけで違うとか、こういう話が出てくるので、何かちょっとでも繋がっていくように私もできればいいなと考えています。あと、なにか教えていただけることがあれば。なかなかない機会なので。

J そうですね。法人として、備蓄とかはしっかりしてたんですけども、どういうふうに事業を再開していくかというところは、当時はまだきちんと考えられていなかったなっていうところもあるので。3.11以降、どういうふうに事業を再開して継続していくかというところの。

橋 その後の運営もですよ。みなさんがいて、私は本当にお世話になっていて、とてもありがたかった。とても備

えられていて、すごくありがたかった。私が息子を迎えに行くのにすごい時間がかかって、ああどうしようって思ったんだけど、そこにいるから本人は大丈夫ということが、すごく安心材料なんだよね。彼は絶対に大丈夫、たぶんパニックにもなってないだろうって、それはやっぱりそちらの事業者さんならではのことだと思うのでね。いろんなことを想定してやっていらっしやることを親に発信してもらっていたから。あそこに通っている親たちはみんな安心感があったと思います。本当に感謝しています。

J ありがとうございます。

橋 あのとき、息子本人の周りがあたふたしたりとか、準備不足だったとか、そういうことになっていたら、その後の本人たちの様子は違っていただかもしれないし、あのとき本人たちがのほほんとしていられたのは、やっぱり安心していただける場所だったからだと思うんです。なので、本当になにか表彰してほしいぐらいなんですけど(笑)、あのとき、やっぱりそれぞれ対応は違ったから、こういうふうには備えて子どもたちが安心して過ごせた場所があるということも、私は発信したいと思ってます。

J はい(笑)。ありがとうございます。

橋 こんな感じで大丈夫でしょうか？ これを忘れてないですか、とかいうことはないかしら？ だって、支援者の方たちだってみんなが被災者だからね。あんまり沿岸部の方とかいなかったですかね。宮城野区の岡田とか中野とかは津波が来たんじゃない？

J 法人の職員のなかには、家が浸水した職員もいましたけれども、事業所ではいなかったですかね。

橋 なんか支援だったり、相談とか受けたりされました？

J 職員から？

橋 職員ではなくても、ほかの事業所から。ちなみに仙台にはいろんな事業所がありますけど、ちょっとしたネットワークもありますよね。再開に向けての連絡体制とかあったんですかね。「お宅は大丈夫？」「うちは当分、始められないけど」とか。トップ同士はちょっとあったかもしれないですけど。

J ああ……メーリングリストで情報提供とかはしていたんじゃないかと思います。メールが繋がるようになったら特にね。

橋 連携みたいなこととかはないんですね。

J 事業所同士ではなかったかもしれないです。でもいま思えば、近所の事業所同士で送迎を一緒にするとか、そういう協力もできたのかなと思います。

橋 ゆくゆくはそこまで連携していってくれたらすごく安心。仙台は都市部だし、人も多くて、もちろん事業所も多くて、逆の難しさがあるかもしれないけれども。近場で助け合えたり、少なくともすぐに情報交換するような体制が、日頃からできていたらいいですよね。

J そうですね。

橋 備えられることは備えて。ちなみに息子がお世話になっていた事業所が移転されて、いまは、中山のほうに行っているけど、あっちも地盤は大丈夫なところですよ？

J そうですね。でも、3.11のときは結構地割れしているところもあったりしたので。

橋 夫の実家がそっちなんです。なのでその地割れがものすごく、古いガス管がだいぶやられて、ガスが大変だった。

J そうですね。結構長くガスは使えなかったですね。

橋 そのあと補修された、新しくなったって思えば、前よりもガスは強い地域になったのかもしれないですね。まあ坂が多いところだから、ガソリンはとっても大事ですよ。本当に坂の多いところなので。いつかそのうち遊びに行きたいと思っています(笑)。今日はありがとうございました。

J こちらこそありがとうございました。